

持42

456

訂正
觀世流強内百拾番

舟辨慶

91

私慶



今思ふに様衣くゆほといふ

早稲 様子の者も西塔の

傍に居たり武蔵坊無慶あり

持統君判官殿八頼朝乃亦代友

少して平家と亡候し給日市兄

弟乃は中日月のいふ事なり



げひうひあふ者の謔言よりの中
 たうらねのうらなとも口惜の次第
 への御まを我志親兄の礼をたま
 せし終るにまの初と信用あつてあ
 國の方へ津下向あつて津才よあやまり
 船の浦へと船よる津乃國居り等
 め渡よるとは船よる津乃國居り等

大物の浦へと名作 サシ 文治の初
 めつゝ頼朝義經不き入由既よ落
 舟力あり 判友 判友都とまの道
 せうくあふ其はらまよ。西國の方へと
 立寄 立寄
 へし ま 友深くも雲井の月
 出るも惜の教の名跡さる坊平家
 信守乃都出よ入て唯十余人

思召まゝへ^冊 妙^冊のよしとるがれ多
 止^冊のよしとるがれ多
 借とみ^冊として今^冊の打帯行も
 流^冊に似合ぬ程よ^冊とるがれ是
 よう^冊は^冊へ^冊あ^冊か^冊と^冊なる^冊判友
 ち^冊毎^冊度^冊も^冊う^冊ら^冊ひ^冊へ^冊きて^冊は^冊更^冊へ^冊詩
 の^冊は^冊宿^冊へ^冊ま^冊う^冊て^冊ド^冊ク^冊へ^冊び^冊く^冊此^冊屋^冊の内

よ^冊お^冊れ^冊儻^冊の^冊悉^冊より^冊の^冊清^冊使^冊よ^冊武^冊彦^冊
 し^冊ま^冊く^冊い^冊て^冊殿^冊の^冊意^冊思^冊の^冊よ^冊ら^冊い^冊
 や^冊行^冊乃^冊た^冊め^冊の^冊は^冊使^冊ま^冊て^冊い^冊ら^冊は^冊ん^冊
 多^冊う^冊し^冊ま^冊る^冊事^冊の^冊も^冊あ^冊ら^冊ぬ^冊我^冊君^冊
 の^冊御^冊護^冊よ^冊ら^冊せ^冊給^冊の^冊は^冊ま^冊り^冊な^冊ら^冊ぬ^冊非^冊
 妙^冊は^冊思^冊召^冊ら^冊ま^冊あ^冊ら^冊る^冊は^冊行^冊と^冊も^冊ら^冊
 せ^冊似^冊合^冊ぬ^冊程^冊よ^冊ら^冊る^冊是^冊より^冊却^冊は^冊詩

ゆゑにあらざるはとてしる ^{ニテ} 思入思

もよりの信哉行くは信は信は社に

頼ても頼る人の口ある甚

行をなや作 ^保 押清む事とさ

ありて尸位 ^{ニテ} 引くは借尸君

おはすは味はり留まら ^保 あり

こゝろや ^保 ありはとゆふ有る所要

あり ^{ニテ} 社に物状業とるは業の武

藏殿のはとて思ひ程よげら

し ^保 直に許さるる ^保 あり

とも角もさ ^保 度は許さるる ^保 あり

^{判友} あり ^保 あり ^保 あり

度思ひも落人と成落るる如よ

^保 あり ^保 あり ^保 あり ^保 あり

花... 甲...

ま... 惜... 命... 君... 二... 度... 逢...

と... 思... 行... 急... 判... 女... 中... 年... 慶... 舞...

よ... 簡... ず... ぬ... 羊... きて... ぬ... ぎ... 是...

糸... 門... 出... の... 行... 束... 成... と... 菊... 丸... 盛... 舞...

よ... 法... ぎ... と... ぬ... ぎ... 君... の... 法... 家...

ま... び... ぬ... 方... ち... よ... ぬ... ぎ... ぬ... び... て... 涙... 止...

き... 計... あり... 羊... かく... ぬ... ぎ... 苦...

か... ぬ... 様... 乃... 毎... 路... の... 門... 出... 乃... 和... 登... 了... 足...

一... 市... と... も... ぐ... 止... 止... 其... 時... 勢... 立... 何...

う... 時... の... 調... 子... を... ち... ち... ぬ... ぎ... 渡... 口... の... 部... 船... へ...

風... 舞... 中... ま... づ... ぐ... ぬ... ぎ... 坂... 頭... 丸... 禰... 可... 也...

目... 青... て... 三... ぬ... ぎ... 是... よ... 急... 何... ぬ... ぎ... 丸... 止... 久...

立... ま... ぬ... ぎ... 丸... 止... 久... ぬ... ぎ... 丸... 止... 久...

も... 恥... け... ぬ... ぎ... 丸... 止... 久... ぬ... ぎ... 丸... 止... 久...

もあひまね山山は籠りかて籠り
智略智略をめぐり終終は冥王冥王とせありて
句詩の本意本意をばりもももももも
よ句詩の二度二度よよささり入曹魏曹魏の耻耻と
すすもも陶朱陶朱切切もももももももももも
都乃都乃長下長下ももくくままつつののちちととちちととちちとと
功名功名とと貴貴くく心心乃乃ももくくああくく三三とと切切
切

成名成名ときときてて才才志志りりううくく天天乃乃道道
と心心ををててがが解解はは掉掉りりてて五湖五湖のの幸幸
鳴鳴ををたたれれししをを上上てて心心乃乃はは様様ももちち角角
の月月乃乃ももここををちちりり松松てて西海西海のの波波
傳傳よよ歌歌ききはは身身れれ科科ののああささりり款款
ままりり頼朝頼朝もも終終ははちちりり青柳青柳
の枝枝ををつつぬぬるるはは契契ががくく入入朽朽したした

決へ下地さ上 たく頼絶上 頼絶下地 志め
 ちが下地原乃上ぢりもく下地の 抄世中よ
 判上らん限下ふ上 ちかく上る詠乃偽あ下く
 かく上き縁上のつ上つ上り上な上く上の頼下て下代下よ
 出上舟乃上舟上子上若上も上ち上も上つ上あ上さ上と上く
 とく上と上が上く上ぎ上も上あ上す上を上ハ判下度下も下様
 の上實上り上を上出上ぶ上入上の上 静上ハ上あ上く上く

急上馬上直上密上を上松上て上目上よ上し上き上小上別
 ぢ上も上も上義上味上多上り上く 抄上の上中上
 察上し上て上公上怒上く上清上母上を上出上れ上ま上さ上る
 ち上く上の上ち上に上作上行上も上あ上く上公上そ
 君上よ上の上は上談上よ上公上の上海上同上あ上く上公上
 程上よ上は上留上と上行上出上せ上て上公上何上と上は
 程上あ上く上公上は上ん上公上是上を上相上量上

申よ静よ多し跡と情をあつては
留よむる思業者ては終て
今此は方よりか根の事ゆ津運も
つていふもなれ其上一年渡邊福
鳴をあし時ゆゆれち所よ君は
あざあし平家とまほし
今きつて同よそゆ急は母と出

すよアヤカシ上
款よ良ゆ
えち地
出きよ
の武庫山たろよつアハハハ獄より吹
たろよ良ゆよ此は舟の陸地よつて
様よあ皆く申よ清新会

アヤカシ

甲

いふよ武蔵殿此は母よあやうかけての
 つく誓を頼る事なへ船中さくか
 事さくさく上恙しきも海よとこれ
 西國までさく一平家の二門さく
 ほしむさくさく下時節を伺ひく恨
 さあも知る世判友さき事慶甲さ前者
 今更判友さくへさくたさく悪も恨と

あひさくも竹さく乃さく上悪道上
 道のさくさく下神明佛院の真感下さく
 さ天命よさくさく一類下まよと
 始めさくさく下の月御雲霞のさく下良下
 さくさくさくさくさく下杉身入植下
 武天皇九代乃は乱平の知感下幽霊
 あく下恙知下やいふ義經思下かさくさく

浦波の上地色を知らずあまの下く

又上威う下況上其あ下く地又義経

をも海よ志の下かんと下浪よ浮下る長

刀をあ下く下も下波の下紋あり下を下松

湖を下き下て下雲下を下吹下か下き下眼下を下く下を

心も下み下て下れて下前下後下を下ま下る下計

あり下其下時下義経下少下も下あ下ら下し下く

うら下お下接下お下う下つ下の下人下よ下む下ら下あ下ら下く

言葉下を下かり下た下ら下し下給下へ下年下慶下を下

隔下て下う下ら下物下わ下さ下さ下く下か下あ下ま下と下投

殊下あ下ら下く下と下押下さ下ん下て下東下方下降下三下世下南

方軍下叱下利下救下又下西下方下大下威下徳下が下方下全下剛

夜下又下明下主下中下史下大下を下不下動下明下王下乃下さ下ら

く下よ下か下ま下り下新下ま下い下乃下く下も下悪下具下沙下弟

